

第 52 回

全国壮年大会 in 天城

●●●事前配布資料●●●

報告書

大会主題

キリストにしたがう わたしは かわる

～ 聖句 ～

「主は言われる。『わたしは生きている。すべてのひざはわたしの前にかがみ、すべての舌が神をほめたたえる』と。」（ローマの信徒への手紙 14 章 11 節）



(写真：天城山荘)

2017年8月24日（木）～8月26日（土）

会場：天城山荘

第 52 回全国壮年大会 北関東地方連合実行委員会

2017年度（第52回）全国壮年大会報告書 目次

*2017年度	全国壮年大会 スナップ写真	1
*2017年度（第52回）	全国壮年大会を感謝して	5
	大会実行委員長・・・石井 努	
*2017年度（第52回）	大会を終えてのご挨拶	6
	全国壮年会連合会長・・・大城戸一彦	
*2017年度（第52回）	全国壮年大会プログラム	7
*全国壮年大会	主題講演録「キリストにしたがう わたしはわかる」	10
	講師 加藤 誠	
*主題講演を受けて（恵みの分かち合い）10のGroupにわかれて		17
*神学生の証し	西南学院大学神学部選科・・・加山 献	26
	東京バプテスト神学校・・・山中弘次	27
	九州バプテスト神学校・・・田口清吾	29
*2017年度（第52回）	全国壮年大会決算報告	30
*第52回壮年大会参加者名簿（含む 代議員）		31
*2017年度	全国壮年会連合総会議案結果一覧	35
*2017年度	全国壮年会連合総会議事録	36
*2018年度	全国壮年大会（東北）のご案内	41
*全国壮年会連合39年のあゆみ（年度、大会、会場）		43
*2017年度（第52回）	全国壮年大会 in 天城 実行委員会名簿	44

第52回全国壮年大会in天城 写真報告



大会会場 天城山荘 8月24～26日



1日目 大会初日の夕食



「歓迎」石井 努 大会実行委員長



北関東地方連合壮年聖歌隊
(行け 主のしもべ!)



開会礼拝説教 篠谷輝俊牧師



「歓迎」全国壮年会連合会長 大城戸一彦



挨拶 田口昭典理事長



2日目 主題講演 加藤誠牧師

壮年の課題共有の時間(全国壮年会連合)

分団A 献身者を生み出す教会

分団B 新任牧師と協働する教会

分団C 全国大会開催の方法
(壮年大会をデザインする)

分団D 奨学金制度の充実

分団E 「神学校献金(神学生奨学金献金)」の推進



(分団A-1 新任牧師と協働する教会)



(分団A-2 新任牧師と協働する教会)



(分団B-1 新任牧師と協働する教会)



(分団B-2 新任牧師と協働する教会)



(分団B-3 新任牧師と協働する教会)



(分団C-1 全国大会開催の方法)



分団C-2 全国大会開催の方法



(分団D 奨学金制度の充実)



(分団E 神学校献金の推進)



2日目夜 神学校と賛美の夕べ
証しとアピー 伊藤世里江IJCS牧師



証しと賛美
西南学院大学神学部 加山献神学生



証しとアピール
西南学院大学神学部 教員の皆様



証しと賛美
原田賢・伊藤正嗣・加山献 神学生



証しと賛美
東京バプテスト神学校 山中弘次神学生



証しとアピール
東京バプテスト神学校 奥田稔理事長



3日目 提唱の時間 神学校献金推進の時間



協力伝道の時間 宣教研究所 朴 思郁所長



2日目午後 パラエティタイム 世界遺産 蘆山反射炉見学



2018年(第53回)東北大会アピール 向井田洋会長



閉会礼拝 大島博幸牧師



2017年第52回全国壮年大会実行委員会(北関東地方連合)の皆さん

第 52 回全国壮年大会 in 天城 を感謝して

大会実行委員長 石井 努 (太田キリスト教会)

2017年8月24日 (木) ~ 26日 (土)

主題 「キリストに したがう わたしは かわる」

「主は言われる。『わたしは生きている。すべてのひざはわたしの前にかがみ、すべての舌が神をほめたたえる』と」ローマ 14 : 11

主題聖句で、パウロの言葉にすべての人は主の前に膝を折り主をほめたたえる存在であり、すべての人が神の御愛の中にいる家族である事を知らされておりました。わたしたち壮年は主をほめたたえる家族であり、主の愛を伝える口であり足であります。まずは、わたし自身を献身者としてささげ、共に歩む伝道者を支えていくそんな思いを分かち合う大会にしたいと願っておりました。

大会は、「天城峠のブナ林散策」と「浄蓮の滝での溪流釣り」というバラエティータイムから始まりました。講師にお招きした加藤誠牧師 (大井教会) から今回のテーマ「キリストに したがう わたしは かわる」にそって、牧師招聘を通して変わっていったある教会のお話し、常に脇役であったアンデレの信仰、「バプテスト教会に成っていきたい」と願うバプテストの姿をお話しくくださった主題講演を真ん中に、多くの分かち合いの時を持つことができました。これもこの大会を導いてくださった、イエス・キリストの父なる神の慈愛故と心から大きな声で「主よ、感謝します。」と叫びたいと思います。参加してくださった 134 名の皆さんが、多くの交わりの中で神によって立てられた愛すべきひとり一人であるとの想いを新たにしました。忘れられないのは、笑顔の仲間とささげた「神学校と賛美の夕べ」。手をたたき、リズムに乗って、腕を振ってステップして、本当に豊かな時が持てたことでした。

壮年皆が献身者。主に導かれてバプテストの壮年の群れを織りなしている一人一人が派遣された教会に戻られて、全国に散らばる壮年のさらなる羽ばたきを演出してくださると信じております。この大会のために時間を割き参加くださった皆様、心を砕き愛する主に祈りをささげてくださった全国の皆様、心からお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

「第52回（2017年度）全国壮年大会 in 天城」での出会いに感謝します。

＜大会を終えてのご挨拶＞

全国壮年会連合会長 大城戸一彦（西川ロキリスト教会）

主題：「キリストに したがう わたしは かわる」

感謝！

- 主題講演で、イエス・キリストの手によって引き上げられ、生涯、「キリストに したがう」続けた二人の弟子を通して、教会に仕える信徒として生かされていく自分であることを取り次いでくださった講師の加藤誠牧師（大井バプテスト教会）に・・・
- 日ごろからいただいている主イエス・キリストの恵みを携えて今大会に派遣され、多くの分かち合いの実をまとして、「わたしは かわられ、各々の群れに戻られた 135 名（登録名簿による）の皆様と、支え送りだしてくださった教会に・・・
- 2泊3日の大会で、分かち合いと課題共有の時間を十分にプログラムにご配慮いただき、また、大会運営に精力的に取り組んでくださった北関東壮年会の実行委員会の皆様に・・・
- 会場の使用と運営にあたって、プロフェッショナルな見地から行き届いたバックアップをしてくださった、天城山荘の職員の皆様に・・・
- そして、なによりも、大会期間中、聖霊を送ってくださり、壮年キリスト者としての多くの啓発を与えてくださいました主イエス・キリストに・・・

昨年の北九州市での大会から1年、再び皆様にお目にかかれましたこと、また、昨年同様に熱気あふれる大会に3日間ご一緒できましたこと、大変うれしく存じます。

今大会は、表記の主題をもとに、ローマの信徒への手紙 14 章 11 節の「主は言われる。『わたしは生きている。すべてのひざはわたしの前にかがみ、すべての舌が神をほめたたえる』と。」を主題聖句に、大井バプテスト教会の加藤誠牧師が主題講演を担ってくださいました。また、期間中、主題講演を受けて、いろいろなフェイズでの「懇親と交流・分かち合い」や、全国壮年会連合の課題について共有していただく時間が設けられました。1年ぶり、あるいは数年ぶりにお会いする壮年の方々と旧交を温めながら、「分かち合い」、「啓発」、「共有」の時を楽しく過ごされたでしょうか。

「全国壮年会連合」は、1978年の第13回全国壮年大会において、「各教会壮年会等が相互の啓発をはかり、交流親睦を深めると共に伝道活動を積極的に協力し合う」ことを目的として組織され発足致しました。40年目を迎える本年の大会では、諸先輩方が築いてこられた「教会形成を担う」と「伝道者養成の業に参与する」ことを、具体的に自分自身の課題として教会に持ち帰っていただくことを願っておりました。今大会をもう一度振り返り、ご自身の課題と向き合ってくださいたくお願い申し上げます。 ありがとうございます。

第 52 回
全国壮年大会 in 天城
 キリストに したがう わたしは かわる
 2017 年 8 月 24 日～26 日

8 月 24 日 (木)

スケジュール	
14 : 00	バラエティータイム ・ オプション A (天城峠ブナ林散策&旧天城トンネル) 天城山荘より車に分乗して出発 ・ オプション C (日本の滝百選 浄蓮の滝で溪流魚釣) 天城山荘より徒歩で出発 ・ 神学校献金推進委員会議
17 : 00	受付 1号館ロビー 登録の確認、資料、名札受取り、荷物移動
18 : 00	夕食
19 : 00	開会礼拝 2号館チャペル 司会：石井 努 指揮：山中臨在 奏楽：加山 献 前奏 奏楽者 礼拝への招き「行け 主のしもべ！」 北関東地方連合壮年聖歌隊 祈り 司会者 会衆賛美 16「み栄えあれ 愛の神」 聖書 ガラテヤの信徒への手紙 6章 9-10節 司会者 説教 「壮年よ、霊に在って共に歩もうではないか」 篠谷輝俊 (新潟主の港) 会衆賛美 73「善き力にわれ囲まれ」 献金 賛美「私のすべて」(久保公平、廣島尚) 渡邊 弘 会衆賛美 「行け 主のしもべ！」 頌栄 672「ものみなたたえよB」 祝祷 篠谷輝俊
19 : 45	歓迎と挨拶、オリエンテーション 2号館チャペル 歓迎 石井努実行委員長、大城戸一彦全国壮年会連合会長 挨拶 田口昭典理事長 オリエンテーション 久保公平事務局長
20:15	懇親と交流 グループに分かれて ・ 神学校、神学生を語る ・ 教会の壮年会活動を語る
21 : 30	終了

第 52 回
全国壮年大会 in 天城
 キリストに したがう わたしは かわる
 2017 年 8 月 24 日～26 日

8 月 25 日 (金)

7:00 朝の祈り 自由に	
7:30 自由	
8:00 朝食	
9:00 主題講演 2号館チャペル 司会：二見眞義 奏楽：加山 献 講師：加藤 誠（大井バプテスト教会牧師） 演題：「キリストに したがう わたしは かわる」 聖書：第一テサロニケ 1 章 1 節～10 節	
11:00 主題講演を受けて 恵の分かち合い グループに分かれて	
12:30 昼食	
13:30 総会（全国壮年会連合） 2号館チャペル 賛美：新生讃美歌 94 番 指揮：坂本 献 奏楽：加山 献 議長団選出、議事	オプション B（世界遺産 葦山反射炉見学ガイド付 き）
16:30 壮年の課題共有の時間（全国壮年会連合） 分団 A 献身者を生み出す教会 分団 B 新任牧師と協働する教会 分団 C 全国大会開催の方法（壮年大会をデザインする） 分団 D 奨学金制度の充実 分団 E 「神学校献金（神学生奨学金献金）」の推進	
18:00 夕食	
19:00 神学校と賛美の夕べ 2号館チャペル 進行：山中臨在 証しとアピール ・西南学院大学神学部：加山 献（証し・賛美）、伊藤真嗣（賛美）、原田 賢（賛美） ・東京バプテスト神学校：山中弘次（証し・賛美）、戸田浩司（賛美） ・九州バプテスト神学校：田口清吾（証し） ・伊藤世里江（IJCS 牧師）	
21:30 終了	

第 52 回
全国壮年大会 in 天城
 キリストに したがう わたしは かわる
 2017 年 8 月 24 日～26 日

8 月 26 日 (土)

7:00 朝の祈り 自由に
7:30 自由
8:00 朝食 食後にチェックアウトをお願いします。
<p>9:00 提唱の時間 2号館チャペル 司会：二見眞義</p> <p>* 神学校献金推進の時間</p> <p>* 協力伝道の時間</p> <p style="padding-left: 2em;">吉高 叶 (常務理事)、松藤一作 (宣教部長)、久保公平 (総務部長)</p> <p style="padding-left: 2em;">朴 思郁 (宣教研究所所長)、山中弘次 (天城山荘所長)</p> <p>* 女性牧師・主事の会 宮西千晴 (富士吉田教会牧師)</p> <p>* 古田晴彦 (宝塚教会)</p> <hr/> <p>* 次回、東北大会のアピール 向井田 洋 (仙台教会)</p>
<p>11:00 派遣礼拝 2号館チャペル</p> <p style="text-align: right;">司会：大城戸一彦 指揮：坂本 献 奏楽：加山 献</p> <p>前奏 「主にまかせよ」 久場俊男、鈴木武史</p> <p>会衆賛美 32 「主のみ名をたたえよ」</p> <p>祈り 司会者</p> <p>聖書 ヨハネによる福音書 10 章 27 節～30 節</p> <p>説教 「わたしと父とは一つ」 大島博幸 (ふじみ野)</p> <p>会衆賛美 304 「主の血に贖われ (B)」</p> <p>献金 原田 潔</p> <p>会衆賛美 「行け 主のしもべ！」</p> <p>頌栄 679 「ベネディクション」</p> <p>祝祷 大島博幸</p> <p>感謝の言葉 大城戸会長、石井実行委員長</p>
12:00 解散

主題講演「キリストにしたがう わたしはかわる」

大井バプテスト教会主任牧師 加藤 誠

序「キリストにしたがい わたしはかわる」？

今回の大会テーマを初めて目にした時、従来のテーマとの趣の違いに「少年少女大会？」と戸惑いました。石井実行委員長に尋ねると「壮年一人ひとりが神様の前に献身者であることを確認したい。神学生を『献身者』と持ち上げるのではなく、壮年一人ひとりが『献身者』として立つ中に神学生が包み込まれながら立つイメージを思い描くのです」とのこと。あらためてこのテーマを思いめぐらすうちに、だんだん言葉の中身がふくらんでいきました。

「キリストにしたがう わたしはかわる」。

その「わたし」は、どんなふうにかわるのでしょうか。例えば「わたしは賛美する者に変えられる」と言えるかと思います。最初のクリスマス、飼い葉桶の赤ん坊を見出した羊飼いたちは、野原を賛美しながら帰って行きました。「俺たちと同じ暮らしの中に、臭いの中に、神の子が生まれた！」。彼らの日常の厳しい闘いの中に寄り添い、あたたかく注がれる神のまなざしを知った羊飼いたちに賛美が与えられたのです。

あるいは「悲しむ者、涙する者に変えられる」と言いたいのです。主イエスは神の救いを拒み、むさぼりの罪に気づこうとしないエルサレムを見て涙を流されました。「今、悲しんでいる者、泣いている者は幸いだ」と宣言し、今、この世界で不当で不条理な悲しみに傷んでいる一人一人への連帯を表明されたのです。「もう基地はいらない。戦争に加担したくない」という沖縄の人々の叫びを踏みにじり続ける日本の国とわたしたち自身の歪みを悲しみ、痛む者とされる。それは「キリストにしたがう」大切なテーマです。そう思いめぐらすと、無限の可能性が秘められているテーマであると気づかされます。

1. 「信じて働き、愛して労し、望んで耐える」(第一テサロニケ1：1～10)

使徒17章によるとテサロニケには根強い反キリスト感情を抱いた人々がおり、パウロは相当苦勞したようです。しかし、そこに生まれた小さな群れが「イエス・キリストの信仰において働き、愛のために労し、希望をもって忍耐している」様子が、遠く離れて伝道に苦闘しているパウロを励まし続けたのでした(2：19～20、3：7～8など)。

1) 福音が、わたしたちの間で「出来事」となる！

1：5は青野太潮先生によってこう訳されています。「私たちの福音は、あなたがたの間で、ただ単に言葉においてではなく、むしろ力と聖霊と多くの確信において、出来事となったのだからである」(新約聖書翻訳委員会訳：岩波書店)。

この言葉は、わたしを厳しく問いかけます。「お前の中でキリストの福音が出来事となっているか」と。例えば、行事案内のハガキにメッセージを添えて出す際、「お前は、ほんと

うにキリストの信仰と愛と希望において、一人ひとりに向かい合い、ハガキを書いているか？」と問われます。「そのハガキ書きは、どこか牧師としてのアリバイ作りではないか？」、「お前は、集会に来てくれたことで自分の労苦が報われたという満足の仕方をしていないか？」と。目に見える成果に一喜一憂している自分の姿が厳しく問われるのです。

では、わたしの働きがイエス・キリストの信仰と愛と希望に根差したものになるとは、どういうことなのか。「手紙を書く」時に、本質的に大切なことは「このわたしがイエス・キリストの信仰と愛と希望において、そのひとりのことを考え、思いめぐらし、祈る者とされること」ではないでしょうか。電車の中でみんながスマホしか見ていない、他人には無関心な社会にあって、キリストの信仰と愛と希望に動かされて、「自分以外の誰かを思いめぐらし、心配し、祈る者とされる」。そのことが「福音の出来事」なのではないでしょうか。

2) 教会の存在意義 「何の足しにもならない」⇔「違いが生まれる」

日経新聞でこんなコラムを読みました。

「星を投げる人」の話しよう。この話を最初に聞いたのは、アメリカのある教会の説教でのこと。もう何年も前である。牧師はこんなふうに話した。≪朝、いつものように海岸を散歩していると、ひとりの少年が何やら、海に向かって投げている。「何してるんだい？」「ヒトデを投げているのさ」。見ると、見渡す限り無数のヒトデが打ち上げられている。やがて死んでしまうだろう。「こんなにたくさんいるのに、何の足しにもならないよ」。少年は、ヒトデをもうひとつ拾いあげた。「でもこのヒトデには、大きな違いだと思うよ」。そう言って、そのヒトデを海に投げたのである。≫

この話は耳に残った。足しにならない、は no difference 。違いがある、は make a difference。「違い」とはなんだろう。調べてみるとこの話は、ローレン・アイズリーという作家の『星を投げる人』が元になっている。それをいろいろな人が語り直し、子ども向けもでき、いくつものヴァージョンがある。でも話の急所は、少年が言う「違い」とは何かということだ。ヒトデはこんなにたくさんで、全部は助けられない。徒労に覚える。でも少年は言う。「この」ヒトデは確実に助かるよ。そして、ひとつずつヒトデを投げ続ける。それならできるだけ。「ハクソー・リッジ」で負傷兵を助け続けたデズモンドのように。そして、ささやかな「違い」のために、悪戦苦闘している誰でものように。

「違いがわかる」コーヒーのコマーシャルがあった。「違い」は、消費社会の高級品を味わう能力のことではない。自分の生きる意味を理解できる知恵のことだ。(橋爪大三郎「明日に向かう」2017年7月11日)

わたしたちは、自分に取り組んでいる働きにどんな意味があるのかを、この世界が求める「有用性というものさし」で測ろうとします。大勢は何も変わらない、変えられない、虚しさに押しつぶされそうになる。その時に、今日、神から示された「ひとり」に祈りをもってかかわっていく。主イエスからいただく愛と信仰と希望において目の前の「ひとり」に関わる。いわゆる「教勢」に一喜一憂することなく、一つの教会が、誰か一人のことを大切に思い、一緒に考え、悩む交わりとされる。それが福音の出来事なのです。その教会に十人の教会員がいて、それぞれが今日「ひとり」をキリストの信仰と愛と希望をもって受けていく時、福音が出来事となっている。そこに教会の存在意義があるのではないのでしょうか。

「そんなことやったって、何の意味があるんだ？」という「No difference」の声が渦巻く世界の中で「make a difference」の希望を見つめていく。わたしが生きる意味を、キリストから受けて、今日導かれた一人の人との出会いを大切に、そこに愛を、思いを込めていく。そのような小さな福音の出来事が、この世界に「違い」を生み出していくのです。

3) 鳥取教会で「出来事」となった福音

第一テサロニケ 1 : 3 「信じて働き、愛して労し、望んで耐える」のみ言葉は、故戸川隆牧師（鳥取教会）の愛唱聖句です。1957年開設の鳥取教会は、若者たちが都会へ出ていく山陰の厳しさの中、牧師が入れ替わり、ある時十二年間の無牧師状態が続きます。その時の礼拝は、新約聖書と旧約聖書を一章ずつ輪読し、賛美歌を歌い、祈りをささげる礼拝でしたが、「神に向かう厳粛な礼拝だった」と言います。「牧師の話聞きに来る」という受け身の礼拝ではなく、「今日、主イエスがわたしたちの心に穴をあけて語られるみ言葉と一緒に聴きたい」という真剣な祈りの中に礼拝がささげられたのでしょうか。無牧師においてもその礼拝が教会を建て続けたのです。1989年に戸川隆牧師が迎えられますが、以前から脳梗塞だった戸川先生はそのお見合いの礼拝で倒れて救急車で病院に運ばれます。しかし、鳥取教会はその戸川先生を牧師として立て、一緒に伝道し、教会を形づくっていくのです。

鳥取教会の人々は何を牧師に求めていたのでしょうか。戸川先生は若い時のような働き方はできない。むしろハンデを背負い、説教し牧会をされました。この世界にイエス・キリストが自ら十字架に身を投げ出し、私たちに届けてくれたみ言葉を「一緒に読む牧師」を求め、戸川先生を立てていった。「課題あふれるこの世界の中で、一緒にみ言葉から、キリストの信仰と希望と愛を受けていきたい」。その「一点」を共有できるなら、それぞれが「欠け」を抱えながらも「イエスさまの信仰で一緒に生きていこう。お互いを受け合っていこう」という主イエスのからだなる教会が建てられていくのではないのでしょうか。

2. イエスの弟子たちの姿から

1) シモン・ペトロ ～「岩」とあだ名された男～

聖書は「キリストにしたがい、変えられた」弟子たちの姿を伝えています。

シモン。彼は「岩」とあだ名された男です。岩のようなガッツゆえか、その信頼の篤さゆえか、はたまた顔が岩のようだったからか。「(岩) ガンちゃん！」と愛されたのでしょうか。しかし、そのペトロの情熱、リーダーシップが彼をイエスの弟子にしたのではありません。マタイ 14 章には嵐の湖の上を歩く「主イエスのようになりたい」と願った場面があります。ところが風と波に不安を覚え主イエスから目をそらした途端にズブズブと湖に沈むのです。この話をわたしはこう読んでいます。「この世界で見えない神を信じることは、人間が水の上を歩くのと同じように不可能なことだ。しかしキリストが、湖の中に沈む石ころのわたしを『信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか！』と叱りながらも手を握り、グイッ

と引き上げて水の上に立ててくれるゆえに、わたしは信仰をもってこの世界を生きることができなのだ」と。

以前、ルワンダの佐々木和之さんから届いたメールのことをよく思い出します。あるイースターの前の晩に一通のメールが届きました。

「わたしたちの癒しと和解の取り組みは、なんと傷つきやすく無力な働きであることでしょう。自分たちが濁流の中に投げ込まれた木の葉であるような気にさせられます。しかし、そうであるからこそ、十字架と復活の主に祈らざるを得ません。どうかルワンダで、このイースターの時、復活の希望が確かに告げ知らされ、分かち合われますように、お祈りください。」

あの佐々木さんが「濁流の中に投げ込まれた木の葉のようだ。翻弄されて、何もできずに流されていく木の葉のようだ」と言わざるを得ない現実の世界。しかし、だからこそ十字架と復活の主がわたしたちをご自身につなぎとめ、とりなし続け、「生きた石」（第一ペトロ 2：4）として濁流の中に立たせてくださる。その神の働きに目を向けていきたいのです。

2) アンデレ ～常に「脇役」を生きた男～

アンデレはペトロの兄弟で、最初に主イエスに声を掛けられて従った四人の漁師の一人ですが、他の三人が「トップ3」として活躍したのに対し、影の薄い男でした。しかし、ヨハネ福音書は脇役でありつつ「人々をイエスに紹介する」役割を担ったアンデレを描いています。1章（ペトロ）、6章（五つのパンと二匹の魚を持つ少年）、12章（ギリシャ人たち）。もしアンデレが「こんなものが役に立つか！」と少年を無視したならば、供食の奇跡は起こりらなかったし、「エルサレムで今ギリシャ人と会うのはリスクだ」と忖度したなら、「一粒の麦は地に落ちて死ななければ…」の言葉が聖書に記されることはありませんでした。

常に脇役を生きた男。「ペトロの兄弟アンデレ」とは言われても、「アンデレの兄弟ペトロ」と言われることはない。しかし、常に人々に主イエスを紹介し続け、伝説によると最後は十字架に磔にされ、息を引き取るまでの二日間キリストを語り続けたというアンデレ。ペトロはペトロ、アンデレはアンデレ。兄弟でありながら、まったく違う個性で、まったく異なった働きを担った二人。それぞれがイエスの愛にふれて、人生を変えられていったのです。

3. 「共に」教会を形づくる ～「バプテスト教会」になりたい！～

1) 少し大井教会のこと

さて、話はアンデレたちから二千年後のわたしたち、大井教会のことを少し話させていただきたいと思います。大井教会は「バプテストの教会になりたい」と歩んできた教会です。伝道の始まりは、今から86年前、大谷賢二という21歳の青年が路傍伝道でとらえられ、三日後には献身を決意し、大井町で伝道を始めるのです。当時はホーリネスの単立

の教会でした。戦争中は大谷牧師も動員され、教会員は疎開し活動休止の時期もありましたが、戦後、伝道活動を再開し、焼け跡に教会を立てていきます。米軍兵士を通してバプテストを知り、教会まるごと連盟に加盟する決断に導かれます。二代目主任牧師大谷恵護先生の言葉では「バプテストに宗旨がえをした教会」です。1948年12月に冬の多摩川で、大谷賢二牧師をはじめ教会員たちが多摩川の水に沈められました。賢二牧師は「千人教会の幻」を掲げたスケールの大きな牧師で、長男の恵護先生が副牧師、宣教師として来ていたレニー・サンダーソン先生が音楽主事として招かれて、教会学校と教会音楽に力を注ぐ教会として教勢を伸ばし、1960年代に礼拝出席人数は倍に増え、三百三十人を超えます。しかし、1969年に教会闘争が起こるのです。主に青年たちが声を上げ始めます。最初の問いかけは牧師のリーダーシップへの疑問でした。牧師とその取り巻きの執事たちが教会のことがらを全部決めていく。さらに全国に広がっていた学生運動の影響も受けて、キリスト教信仰を問う運動になっていきます。ヘルメットをかぶった青年たちが礼拝になだれ込んだこともありました。一年半の教会闘争で二百人以上が教会を去り、大井教会は「いったい自分たちはどのような教会づくりをしてきたのか」という問いをずっと考え続けて教会形成をしてきたのです。「バプテスト」の看板がついていればバプテストというわけではない。「バプテスト主義」を学べばバプテストになるわけでもない。一人ひとりが聖書から自分で考えて言葉にする。「自分で考えることを放棄するな！」と、大谷恵護牧師は繰り返し教会に語り続けるのです。牧師の言葉が「正しい」と思うな。常に疑え。牧師も狂う。間違える。常に自分で聖書と向かい合い、聖書から答えを得ていく。それを常に意識していないと、教会という集まりはあっという間に保守化する。楽な方に、楽な方に流れていく。そもそも宗教はそういう体質を持っている。牧師にお任せ、執事にお任せ。その方がお互いに楽なのです。牧師も自分が語ることに素直についてくれる信徒が楽です。しかし、それではイエス様の教会になっていかない。大谷恵護牧師は、そのことを信徒に問いかけ、挑戦し続けた方です。説教は牧師が担うけれども、運営は信徒が試行錯誤で担う。教会学校は信徒が責任を持って牧会をしていく場。ですから、教会の教会学校事務室に毎日のように誰かが来るのです。日曜日の出席者名簿を整理し、次の日曜日の教会学校準備をするため、入れ替わり立ち代わり教会員が出入りしている教会です。また、役員も委員もすべて立候補制です。今ではなかなか成り立たなくなり、候補者が推薦を受けるようになってきましたが、バプテスマを受けて間もない青年が立候補して、責任役員を担うことも起こります。最初は驚きました。しかし、よく見てみると、若い人も含めて自分が示された役割に手を挙げる。誰かから言われたから、選挙で選ばれたからではなく、神さまとのやり取りの中で自分がその思いを与えられた…という主体的決断において、一人ひとりが教会を担おうとしている。大井教会がずっとこだわってきたことが少しずつ分かるようになってきました。もちろん、常にいろいろな課題山積なのですが、ただその根底に「バプテストの教会になりたい。なりたいたいと思わなければ、あっという間にバプテストではなくなり、長老派の教会、監督制の教会になってしまう。常に一人ひとり

が主体的に考え続ける教会でありたい」という思いを抱えている教会です。

2) 牧師の仕事は生涯学び続けるもの

その大井教会に、いまわたしは牧師として立てられているわけですが、バプテスト教会で牧師の働きを担うことは、簡単なことではないというのが実感です。そもそも牧師という職務は、失敗の連続、失敗を重ねる中で学んでいくものですが、中でもバプテスト教会の牧師の場合、「慣れ」が危ないと感じています。牧師になりたての頃は「未経験ゆえの失敗」がたくさんありますが、少し慣れてきて「できるように」なると、「できるようになったゆえの失敗」があります。10年、20年と牧師の働きを続けて、何となく自分のやり方に自信がもてるようになる。けれどもそのことゆえに、教会員の主体性を奪い、教会がバプテストになっていくことを邪魔してしまうことが起こるのです。

バプテストの教会では、牧師も教会員も、「バプテストの教会になり続けていこう」という思い、「分かったつもりではなく、常に学び続けていこう」という姿勢が大切なのでしょう。「慣れてきた」、「このやり方が定着してきた」がマニュアルになり、考えることをやめてしまう。崩されて、新しく変えられていこう。まさに今回、「キリストにしたがう わたしはかわる」というテーマが掲げられているわけですが、「わたしが変わり続ける」、これはバプテスト教会に与えられた、うれしいあり方ではないかと思っています。

4. ひとりの献身を支える教会・神学校・連盟の協働

①「献身が育まれる段階」。献身を育む段階で大切だと思うことはそれぞれの教会に「バプテストらしい教会になろう」という気概があふれていることです。昨夕、わたしが参加した分団では、一人の牧師が神学校に献身した時の教会の様子を語ってくれました。「自由な教会だったからだと思う。青年たちがこんな伝道集会をしたいと企画したものを壮年の人たちが温かく見守ってくれた。こんなふうに自分たちも奉仕できるんだとチャレンジさせてもらえる雰囲気は教会全体にあった」という言葉でした。「バプテストらしい教会をみんなで作っていきましょう！」と、壮年たちがやわらかな姿勢で一緒に立っていきましょうとする雰囲気の中で、一人の献身が育まれていくのではないのでしょうか。

②「神学校での学びの段階」。神学校に送ったら「あとはお任せ」ではなく、神学生を送った間、教会は祈り続け、できれば神学校に一年に一度は足を運んで、神学校の先生たちとあるいは研修教会の牧師と顔を合わせて「大丈夫ですか？ちゃんと勉強していますか？」と関心を寄せ、コミュニケーションを取り続けることの大切さを覚えます。

③「教会に赴任する段階」。新卒牧師には「しっかり勉強してもらおう」という姿勢で牧師を待ち受けるのではなく、「自分たちも一緒に学んでいこう」という雰囲気が教会にあるのでしょうか。経験のある牧師だからこそその課題があり、新卒の牧師だからこそその課題がある。大切なことは、それぞれの段階で自らの課題を自覚し学び続けていくことでしょう。牧師に「これで大丈夫」はないし、教会員の側も「経験豊富な牧師だから大丈夫」と思っ

た瞬間に、実はバプテストらしさを失ってしまう危険がある。常にみんなで「学び続けていこう」という、柔らかな雰囲気と情熱を大切にする中で、「わたし」を含めた一人ひとりの献身が育まれ高められていくのではないのでしょうか。

「キリストにしたがう わたしはかわる」。この初々しい、キリストに向かって成長し続けたいという祈りを持つ壮年であり、一人ひとりの「かわる」可能性を無限に見つけていく教会でありたいと思うのです。

※当日の講演をまとめるにあたり、かなり割愛した部分もあります（講演者より）。

主題講演を受けて

グループ 1

- ・大井教会の歴史に共鳴した。
- ・大井教会の月約状況を掲示する、いさぎよさがある。
- ・献金はひとつ、指定献金制度は本流ではないのでは。
- ・バプテストは強い一人に翻弄される場合がある。誤った教会主義は危うい！
- ・さっと来て、すぐ帰る人が多い。どうしたものかと悩む。
- ・その人たちを認めるのが大切ではないか。一緒に生きることが大事。
- ・牧師のメッセージを包み込めることが大切ではないか。
- ・ホーリネスからバプテストに変わったことに驚いた。なぜ変わったのか知りたい。
- ・多くのことを多くの時間をかけるバプテストの良さは認めるが、発信する力までも奪ってしまうのではないか。
- ・牧師も信徒も共にバプテストに成りきろう。相手を認めることから始める。役職の立候補制を考える。
- ・「キリストに したがう わたしは かわる」に感動。誰が変わるのか、何に従うのか。
- ・いつも変わらないといけないと思う。主の言葉によってこわされていく。
- ・常に喜べ！ いつも感謝せよ！ 中に祈りがある。神との会話による気づきを与えられる。
- ・無牧師による気づきに生かされた。多くの信徒が考えていたことが発見できた。
- ・十分の一献金の大切さ！ キリストに従っての献金なのか！

主題講演を受けて

グループ2

- ・バプテスト教会になりたい、この難しさ。「自分で考える」という苦しさ、しんどさを選び取ること。この「自由」を生きる共同体、それが神が求める人間らしさではないか。
- ・牧師の権力が強い教会（メソジスト）からバプテストを見ると、教会形成の違い、壮年会の役割の違いがある。どう崩されていくのかという考え方はバプテストに独特なもの。
- ・信仰が崩されるとは、神に生きることにつながる。
- ・「教会学校」があるというバプテストの豊かさ。一人一人が立つバプテスト教会を目指す中で、今こそ教会学校を見直すべきではないか。
- ・同じ東京にありながら互いに知らなかった教会との交流。壮年がいかに青年と関わるのかという課題を発見した。
- ・バプテストを考える中で、按手の在り方が歴史の中で変わり続けてきた。その按手を学ぶこと、とりわけ信徒が学ぶことが必要で、その姿勢が「バプテスト」になっていくのでは。
- ・教える者が一番聖書から教えられる。教師を担う豊かさ。
- ・壮年が定期的に青年と食事会をする、教会ならではの雰囲気。
- ・働きの付与としての按手。牧師と信徒が互いに「私」の役割を認識しあう時である。
- ・式文を学ぶ試みの中で礼拝を学んでいく。事柄を「伝統」で済ませない。
- ・“アンデレ”のように生きる教会。開拓伝道の減少が現代の課題。新しい教会を目指す姿の中にバプテスト教会はある。人数の多少ではなく、開拓を目指すことが必要である。
- ・バプテストらしさという前に、他派をどれだけ知っているのか。「バプテスト」というお山の対象にならないように。変わらなければならぬという現実を目の前にして、その先の知恵を神に置くことができる愚かさ。壮年会という組織の未来のために私たちは考えているだろうか。
- ・何かを変えようとする力は、投げかけられた問いから始まる。「牧師は必要だ」「牧師は必要ではない」という問いをどれだけ拾えるのか。
- ・牧師という役割はあるはず。「役割」をどう考えるのか。
- ・長老制、監督制のメリット、デメリットはどうか。違いを見るより一致をむるほうが大切ではないか。キリスト教マイノリティな日本にあって。
- ・バプテスト一般論ではなく、私たちの自分の教会とは何かと問う。
- ・自分の教会を考える、崩れた後のイメージがあるか。
- ・考え方の癖、偏見がある私たち、だからこそ、キリストに従う。キリストに聴くという教会へ。
- ・人数が少ない壮年会にあって、熱心さはあまりない。変わりなさいと問われている気持ち。
- ・責任を押し付けあう価値観がある日本で、その価値観に流されず、事柄を進めることが必要では。
- ・世代交代がうまくいかない現状、後継者を育てることが急務である。“自分で考える”ができない状況を作ってしまった。そこからの脱却。
- ・責任を担う牧師。そのあり方で後継者と共に担うこと、丸投げ押し付けではなく。
- ・アンデレを担う壮年へ。青年が生きる教会へ。
- ・ある教会で何もしなかった青年が、ある教会で生き生きと奉仕している。しなかったのか、出来なかったのか。「あなたがそこにいていい」と言える教会へ。礼拝の現実の中でどう考えるのか（・母子室がある教会。しかし、本来は会堂にみんないていいはず。・子どもは“身体”で覚える。大人が思っているよりも聞いている。・子どもと大人の礼拝を。）
- ・今回のテーマに無限の広がりがある。都市と地方の違いは知っておくべき。教会が立っている地に住む人たちがどれだけ伝道しているのか。聖書の言葉を自分の出来事へ「わたしは かわる」

主題講演を受けて

グループ3

- ・バプテストらしい教会を作るという事が分かった。自分はペンテコステ派の教会から来たが、初めは馴染めなかった。バプテストらしさを追い求めるといふ部分だけ再度聞きたいくらいだ。
- ・大きい教会だから、それ（追い求める事）ができるというのものもあるのではないか。
- ・自分は浦和教会から来たが、大きい教会ではお客様でいられる。太田教会では一人一人が色々な奉仕をやっている。
- ・どこの教会も課題はあると思うが、水戸教会では高齢化が課題となっている。
- ・自分は高齢だが、85歳まで頑張ろうと思う。年齢の壁を壊していきたい。
- ・自分もキリストに従い、変えられ続けていきたい。福音が自分の出来事になるという事に感銘を受けた。課題もまだまだたくさんあるのだが…。
- ・ぜひお聞きしたいが、神学校ではどんな勉強をされているのか。（伊藤神学生に対し質問）
- ・学校内での勉強の他に、他の教会等色々なところに訪問することが大きな学びとなっている。
- ・神学校ではスーパーバイザーの存在が大きいと思う。
- ・バプテストにおいては、牧師になりたいと言ってもなれない。招聘があり、教会や牧師の推薦がなければなれない。神学生はそのためのハウツーを学びに行っているわけではないだろう。
- ・実際ハウツーも学びたいが、やはり聖書を読み込んでいく中で、向き合っていくことが大切だ。
- ・太田教会が牧師を招聘するにあたり、何を牧師に担ってもらうのか、それが大切だと思えた。
- ・牧師には聖書の専門家であって欲しい。
- ・連盟発行の「執事/役員と牧師の協働」を教会で活用している。大変参考になる。
- ・「バプテスト」誌もぜひ活用してほしい。
- ・変わり続けるためには何が必要なのかと思う。変わり続けられることは嬉しい事だ。
- ・変わり続けるには、興味を持ち続ける事ではないか。教会でリーダー的な存在は必要だと思う。
- ・今日の講演で一番印象的だったのは「祈り」についてだった。
- ・牧師を大切にするとはいどういう事なのかと思う。牧師の言うとおりにする事ではないはずだ。結局、牧師は信徒のために祈り、信徒は牧師のために祈ることが大切なのではないか。
- ・自分は牧師だが、説教に応答してくれるとやはり嬉しい。
- ・神学生になって思う事は、叱られる事がなくなった事。周囲の人に守られているのを感じる。
- ・「キリストに従う」を「聞き従う」等になると、具体的に自分の事となりやすいのではないかと思った。

以上

主題講演を受けて

グループ4

- ・キリストにしたがう わたしはかわるのテーマが広すぎた。自分の教会は約100名いて、奉仕に自分から手を挙げない。牧師はメッセージ(説教)に集中して欲しい。その他は教会員が受け持つ。レジュメの「自分で考える事を放棄しない」が心に刺さった。
 - ・これから自分の教会をどうすべきかの会合を1回/月で持ちたい。信徒説教を通し、自分の信仰がしっかりしないといけないと思った。宣教師の話から、来年の今はもっと信仰成長するようにとの思いが起こされた。
 - ・自分で考えないといけないんだなと思った。色々な牧師の言う事に振り回されていたことを思い起こされた。
 - ・対話を大事にと壮年が話しているのに驚いた。初めポートランド行きに旦那様は興味を示されなかったが、ある教会出身者のいる現地の日本人教会に行くことを勧め続けた。日本の教会に戻ったが、初めは開拓伝道などするなと反対意見があって窮屈を感じていた。対話無くただ伝統だからと言われても、良くなることは出来ない。投票人数でなく、私が1人/日誰かのために祈ることが大切だと示された。
 - ・講話はキリスト教原理主義よりも教会がどうあるべきかの下からのアプローチだった。私達一人一人が神様からどういうテーマを受けているかが大事。キング牧師も下からのリーダーたれのメッセージを残しており、バプテスト的であった。
 - ・バプテスマを受けるまで時間が掛かった。日曜日に仕事なので、教会に来れない葛藤があった。「下の窓」の話を受けて、「上の窓」だけでなく大切だなと思った。
 - ・教会メンバーは時代と共に変わる。私個人は変わりたくない人。どうしても今までこうだから変えたくないという意見が出てくる。特に礼拝音楽関係。大集団は舵を変えるのも難しい。変わらないは楽だけどダメだと思う。
 - ・大井教会で過去に起こった学生動乱を知っている。
- Make a difference** の話は感銘を受けた。私達はキリストの体の枝にあたる。
- ・キリストにしたがうことが大事。自分で考えることを放棄しない。自分の教会は無牧になったことは無いが、無牧は信徒を成長させる。
 - ・わたしがかわるが大事。壮年会がかわるのではなく、わたしがかわらないといけない。碎かれることが大切かも知れない。自分の小さくはあるが **difference** がなくてはいけない。説教の牧師の言葉ではなく、その中から御言葉を聞くことが大事と思う。
 - ・教会人数が少なかったのが、皆がかわってきた。皆、何でも奉仕をする。前の教会にいた時はつい奉仕を執事に任せてしまっていた。しかし、今は近所の人を招いて歌の会をする内に参加者が教会に来てくれるようになった。幼稚園中心の教会運営は伝道に結び付かない面もある。教会組織をした今からもう既に次の伝道所を作る気運がある。
 - ・自分の正しさを捨てないと神様の御言葉が入ってこない。自分が変わるとはそういうこと。立場的には牧師は牧師、信徒は信徒の違いが必要。御言葉をストレートに語っても聞き入れられない人もいる。
 - ・神学校に行くだけが献身でなく、私達一人一人が献身者。イエスに変えて頂くこと。
 - ・会衆主義と全浸礼のバプテスマは賛成ですし、自分も新信徒がいればそのように勧めます。しかし、会衆主義と全浸礼は手段の一つであって最終目的ではない。目的は一人一人が先ず神様を信じて御許に歩むということ。
 - ・親がバプテスト教会に来ていたからということもあるが、私自身が共感出来るからバプテスト教会にいる。伝統云々でなく、私達のバプテスト主義にシフトする必要がある。
 - ・万人祭司と言われているがバプテスト主義でないと牧師の横暴さを食い止めることが出来ない。牧師も休みを取る時には「いつからいつまで休みを頂けるのでしょうか？」と尋ねることが大切。休みを取りますでなく。今の牧師には感謝している。「ペテロ・パウロは神学校に行っていない。だから、神学校に行っても信徒説教を頑張りなさい」の励ましの言葉がありました。

主題講演を受けて

グループ 5

- ・ no difference make a difference

「何の足しにもならない」 「違いが生まれる」

この意味をおしえてくださいとの質問があった。それに対して新聞のコラムにこのような記事がありました。アメリカの少年が海で打ち上げられているヒトデを海に投げ入れていた。そしてその少年に聞きました。なぜそのヒトデを投げてるの？すると少年は答えた。「助かるヒトデが有るからです。」との答えです。その意味はそのヒトデの命が何もしないよりか命が救われるとの思いがあって海に投げ入れる。そのことによりそのいくつかのヒトデの命が救われる。そこで「違いが生まれる」との返答でした。そのように私たちクリスチャンであっても面倒臭いとかその事をする事を嫌だとかと言う時があります。不満を言わず行動することにより「違いが生まれます。」

- ・ 引っ込みじあんな私が仕事で途上国の国へ土木の仕事で行くことになりました。何で私がこんな国へ行って言葉もわからなし文化の違いもあるしと、不満だらけの日々でした。でもそんなことではダメだと思い現地の言葉を少しずつ習うようにしました。そしてイエスさまが心の中にいる事を信じ何とか元気になった事を思い出します。

- ・ 宇宙のお話を子供達に話すとすごく興味を持って話を聞きますね。

- ・ 私の教会は創立70年で、自立した教会です。地域の方々との接触があることこそ大事だと思います。神の国が近づいた。福音が来る。自分は変わる。

- ・ 経験していると何かと教えてしまう事がある。教えてしまうことはバプテストではなくなる。又話を聞き待たなくてはならない時もあります。この世にいなくなったイエスさまの後にペテロ達が立ち上がったその事をさせた神さまが素晴らしい。

主題講演を受けて

グループ6

- ・講演を受けて、献金のグラフ化が印象的だが狙いが献金額ではなく神との約束であることを認識するための方法であることが理解できた。
- ・外国人との共同の礼拝では、母国語からの翻訳など共通理解に工夫している。
- ・(共に) 教会を形作るとは、牧師リーダーの違いよりも、自分自身で考えることが大切であり、社会問題への関心はそれぞれの違いを大切にすること。
- ・「バプテストを目指す」というとらえ方のユニークさと、忘れるとあつという間に戻ってしまうという講師の発言は印象的であった。
- ・大井教会の教会形成の歴史を振り返ると、書記は権威主義であったが、バプテストらしさとは各自が責任を果たすことが共通理解となった。総会での投票については立候補制でありまた不適任投票もある。
- ・信仰とは「対話」であることが特に印象深い。
- ・No difference と make a difference の例話を通して、対話する力、自分の信仰の大切さ、そして変わり続けるということを教えられた。
- ・誰でも献身できる自由を持っている。
- ・「バプテストでなくなるとは」その理由として、牧師任せにすること、鳥取教会の事例、12年の無牧師期間を越えて出来事が印象的であった。
- ・青少年担当牧師の呼び名と役割について、青少年活動の指導は信徒が行い、その信徒を訓練することが主な役割である。
- ・教会のカラーとか特色とかというとらえ方をすると、所属する会員の相違点はその集団を特徴つけていく。
- ・教会のなかで、できる出来ない、差がある、よそから来た人、高学歴なメンバーなどの違いが出てきている。
- ・今までの教会の聖書の読み方は、中流派階級が参加しやすい倫理面が強調されていなかったか。
- ・聖書教育誌の扱い方、活用方法などについても様々な意見があり、9年間の物語シリーズでは、私の生きざまに照らすことが焦点が絞られている。
- ・聖書の人物としてパウロからは、使徒として異邦人伝道者として、自分がかわる、かえられることを教えられた。
- ・特伝の講師から「皆さんは幻がありますか」と聞かれ、答えられない経験があった。
- ・講師の教会事例から、役員と執事の呼称や働きの違いなどが示されてよかった。
- ・執事役員の選挙に女性枠を提案したら、女性側から賛成が得られなかった。理由はPC操作、説教、司式など荷が重い。
- ・執事役員の定年制を検討しているが、他の教会では如何であろうか・

主題講演を受けて

グループ7

*「教会の信仰告白」について

- ・反対意見をもっている人でも、「教会の信仰告白」を納得してもらって転入会する。反対意見も封じない。
- ・告白には守りと攻めの扱いがある。
- ・聖書を基にした、バプテスト教会になりたい。
- ・連盟加入時の古いものを、40年継承してきている。教会員が変わってくるので学び直していく。
- ・「教会の信仰告白」は固定化されたものでなく、見直す、都度変えるものでなく、目標は長く使っていく。
- ・生きた信仰告白は、教会形成に必要。
- ・聖書理解、翻訳も根本はあるが動いているもので、来年にはかいせいの動きがある。
暗証聖句は口語訳のほうが使いやすい。
- ・バプテストマ、転入会には「教会の信仰告白」は必要。
- ・拘束のない「教会の信仰告白」は無い。
- ・いろんな人が、いろんな意見をもっている。バプテストは危ういのでは？
- ・「教会の信仰告白」は雛型どうりのものでなく、見直し、自分達で作り上げるものとしたい。
- ・教会立上時の「教会の信仰告白」では、時代に合わなくなっている。聖書が相対化され、人が変わり時代が変わり、聖書の読み方も変わってくるので、固定化された「教会の信仰告白」では、活力を無くす。
- ・「教会の信仰告白」は10年毎程度で見直していく必要が、あるのではないか。
- ・バプテストは自身の告白を会衆が賛同してくれるもの。
- ・「教会の信仰告白」の改定には多大な労力がいる、きょうが必要。
- ・ある教会の告白には、国のみほりをすると文面が入っている。
- ・「教会の信仰告白」を作り上げるのに、全員で聖書を学び合い、長い討議を行った。視点を先に変え初めて教会に来る人達のめを考えるのもいい。
- ・個々の信仰を大事にし「教会の信仰告白」は作らない。
- ・「教会の信仰告白」は転入会・バプテストの時に吟味し、教会員になるためには必要。
- ・原点は聖書を読む、祈ること。

*その他

- ・教会にしがみついている自分・本人がいる。
- ・「共に」は主の会在なしにはできない。自分の弱いところをさらけ出す。
- ・聖書は共通の信仰基盤、一人一人が教会となる。
- ・牧師がいなくても成り立つ教会とする。
- ・自分が聖書からもらったものを言葉として発言しなさい。
- ・バプテストとしての教会、各自が教会として立っていく。自由で民主的で拘束しない。

以上

主題講演を受けて

グループ 8

- ・ どういうところから救われてきた一人一人が教会を共に作ってきたのか。
- ・ 神の働き、バプテスト。
- ・ ペトロの水の上・・・招聘・・・自信ない・・・ただ私のもとに来なさい。沈んでも、イエス様が招いて下さったのなら、立たせてくださる。
- ・ わかりやすい言葉。大井教会「バプテストになりたい」・・・教会に持って帰りたい。
- ・ ペトロ・・・私も小さい石だがチャレンジしたい。月一の〇〇教会、〇〇集会も協力したい。
- ・ 三つの窓。神様につぶやく、自分もつぶやく多い。神様に全てをつぶやくこと。人と人とでつぶやいてもダメ。
- ・ 宣教する者として遣わされていくわたしたち・・・大切。
- ・ バプテストでよかった。以前の機関誌（『神の使者』）を思い、日々変えられていく私、変えられているか。
- ・ **make a difference** I テサ 5 : 6 喜び、**祈り**、感謝
- ・ 月約献金を貼り出すことについて
- ・ 火何社献金に内容を書くときのみ週報に載せることにより祈りあうことにつながる。
- ・ **dialogue**・・・理解するために会話する。神様がいてくださる。敗者、勝者がいない。
- ・ **discussion**・・・けんかして、より良いものを選ぶ。
- ・ 傷つく、ハラスメントの時代に、がんこもの壮年の役割がある。けれど、ハラスメント時代は若者が変わっている時代である。
- ・ 自分で祈りをしっかりしたい。
- ・ バプテストに、常に原点回帰。
- ・ バプテスト教会を止めたら保守化する。
- ・ 若者にわかりやすい言葉、文章、週報の課題。
- ・ 献身について、九バブが教会とコンタクトをとってくれる。連盟で研修会があり、孤独、孤立感がなくうれしい。
- ・ 変えることはいいと思っていたが、今日「変わる」ことを習った。恵である。
- ・ キリストの教会になる。
- ・ 人間の理解のため、けんかも大切。
- ・ なぜ「かえられる」ではなく、「かわる」のか。
- ・ テーマに半角、全角、ひらがなの真の意味、思いは。
- ・ 壮年大会の賛美歌について。
- ・ 教会の協同のかかわり方。ユース礼拝の検討。

主題講演を受けて

グループ 9

- ・ 仕事上の危機に面していた折に、信仰の友からの「共に祈っている」という言葉を聞いたとき、自分は一人じゃないことが分かりとても励まされたことがあった。
- ・ 「共に教会をつくりあげる」という話しの箇所で「共に」が抜けてしまうとどんな教会がえられることになるのか恐ろしいと思った。教会の友と一緒に教会形成をしていきたいとあらためて感じた。
- ・ 年を重ねるごとに以前できていたことができなくなってしまったことに不安を感じていたが、脇役のアンデレであっても神から必要とされた場合には役割が与えられたことを教えられ、感謝だった。
- ・ 「喜び、祈り、感謝」の真ん中に「祈り」があることを感謝。
- ・ 「喜び、祈り、感謝」の後に続く言葉（「これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」テサロニケの信徒への手紙一 5 章 18 節）も非常に大事。変わることに、変えられることはどれだけ大変なのかわかる。
- ・ 「キリストに したがう」ということは深い問いがあると思う。変わっていかなければ、という危機がある。
- ・ 教会で新しい奉仕をし始めたところで、人を大事に思うようになった。「キリストに したがう」という言葉の重さを実感している。

主題講演を受けて

グループ 10

- ・ 牧師と共に話を聞いたかった。
- ・ バプテストになり続けることの大切さ、牧師に任せっぱなしになっている現状への反省。
- ・ バプテストとはの理解
- ・ 信徒説教の受け取り方、新来者への配慮。信徒説教の学び。
- ・ バプテストの理解・・・教会が委託すれば誰でも説教、晩餐式できる。葬儀に関しても同じ。
- ・ 「共に」は聖霊の働きがないところにはできない。
- ・ 自分の失敗が受け入れられないのは、他者の失敗も受け入れられないのではないか。自分の内に失敗はできないとう守りの姿勢があるとき、そこに「共に」はないのではないか。

壮年大会（2017/8/25）での証

西南学院大学神学部選科3年 加山 献

主の御名を賛美いたします。
壮年会の皆様の祈りとお支えを、心より感謝いたします。

西南の神学部では、学校での神学の学び、
寮での共同生活、研修教会での奉仕を三本柱に据えております。

寮での1日は、朝7時半の寮礼拝から始まります。
その後、朝食をとり、それぞれの履修している授業で学ぶためにキャンパスに出て行きます。

学校では、ヘブライ語やギリシア語の原語、聖書の釈義、教義学、歴史、そしてあらゆる実践的な神学を学んでいきます。最初は授業についてゆくことで必死でしたが、3年目、4年目になって、ようやく楽しみつつ学べるようになってきました。

神学部に入學してから、ゆっくりと時間をかけて、神という存在について、自分という存在について、思い巡らす時間がいただけたと感じています。また、聖書のみ言葉が益々新鮮に心に響くようになった思いがいたします。神は、どのようなお方で、世に対して、またわたしに対してどのような眼差しを向けておられるのか、また、神はわたしに対して具体的に何を語り、何をを行うことを求めておられるのかを、深く考えるようになりました。

知識的にも多くのことを教えていただいただけではなく、志を同じくする、信仰の友と出会うこともできました。どのような時も、励ましあえる友がいるということは心の支えです。時にはぶつかり合うこともあります。神学校で一緒に過ごした仲間は一生の財産であると感じています。

しかし、昨年12月には一緒に学んでいた神学生の仲間が、自死によって命を絶ってしまうという、わたしたちにとって、思いがけない、悲しい出来事がありました。

わたしたちはみな、牧師になりたい、痛みを持っている方に寄り添う人になりたいと望んで神学校にやってきたものたちでした。しかし、一番近くにいた友の痛みに気づけずにいた現実を突き付けられました。わたしたちはそれぞれに、人に寄り添うという言葉の意味を、人を愛するという言葉の意味を、今一度考えさせられています。

様々なことを経験しながら、私の神学部での生活は研修生時代も含めて、4年目に入りました。振り返ってみると、漠然と不安を抱いたことや、自分の弱さを感じたこともありました。同時に、今までの人生の中でこれほどたくさんの人に祈っていただいた経験はありませんでした。わたしを送り出してくださった推薦教会の皆様の祈りがあります。わたしを迎えてくださった、神学部の先生方、研修教会の皆様の祈りがあります。祈られている、支えられている、という経験がわたしの力になっています。あらためて、皆様の祈りとお支えに心から感謝いたします。

壮年大会（2017/8/25）での証

東京バプテスト神学校 山中弘次

天城山荘で8月24日～26日に行われました全国壮年大会で証をする機会をいただきました。私は、壮年会の皆さまの神学校献金への取り組みに対するお礼、東京バプテスト神学校のご紹介、加えて私が信仰に導かれた経緯、その後天城山荘への赴任を決めた時のことなどをお話しさせていただきました。

1. お礼

東京バプテスト神学校の予算は、約1700万円／年です。このうちの約半分は学生が納める授業料で賄われています。残り半分の内の大きな部分を神学校献金に担っていただいています。おかげさまで私たち学生は、学びを進めることが出来ています。壮年会の皆さまの神学校献金のお働きに深く感謝申し上げます。

2. 東京バプテスト神学校

東京バプテスト神学校は、東京、北かん、神奈川の3連合立の神学校です。1962年9月に旧連盟事務所（新宿区西大久保）でスタートしました。今年で55年の歴史があります。累積卒業生数は2013年度末で207名。2015年現在、各地の教会・伝道所で牧師など伝道者として働いているのは57名です。連盟全体の教会・伝道所数は、325か所ですから、東京バプテスト神学校が大きな役割を果たしていることがわかります。

3. 証

3-1. 信仰に導かれた経緯

私が西川口キリスト教会に通いだしたのは、40歳のときでした。今から19年前です。その年、私の家庭は崩壊し、私は離婚を経験しました。まだ小学生だった二人の子どもは、私が引き取って育てることになりました。出張、残業…。どうやって暮らしていけばいいんだろうと、途方に暮れました。すがるような思いで、西川口教会に通いだしました。教会に通い出してすぐの頃、マタイによる福音書11章が取り上げられました。

11:28 疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。

11:29 わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。11:30 わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。

家庭崩壊、仕事、家事、子育てで疲れていた私に強く響きました。へとへとで具体的な解決策もないんだけど、それはそれで良いんだと思いました。あの頃の気持ちを歌った歌「ここへおいで」を讃美させていただきました。

3-2. 天城山荘へ

私への天城山荘赴任のお誘いは突然でした。昨年10月、千葉教会の矢野満先生からお電話をいただきました。「天城山荘の所長をやってみませんか？」驚きました。「天城山

荘って…？所長って…？」もちろん、天城山荘が連盟の研修施設だということは知っていましたが、実は、この時点では私は天城山荘に行ったことがなかったのです。10月10日、天城山荘に泊まりに来ました。「とにかく見てみよう。」天城山荘委員会の篠委員長も来て下さって、いろいろお話を伺いました。2015年度赤字、2016年度は更に赤字拡大の見込み。「これは大変な話だ！！」と思いました。私は民間企業の技術者です。宿泊施設の経営などやったこともないし、赤字からの回復など到底出来そうもない。でも、なぜか私は断りませんでした。「もうちょっと良く考えてみよう。」回答期限は11月22日でした。神学校には通っていますが、牧師になる気はありませんでした。しかし、40歳の時の家庭崩壊のヘトヘト状態から私と私の娘達を救い出してくれた教会と神様に、何か恩返しできることはないかと考えていました。11月22日の深夜、決めました。「天城で用いられてみよう。」会社を辞めて、天城に来ました。天城でお客様に礼拝、祈り、交わりのお場をご提供することをとても嬉しく思っています。

以上

壮年大会（2017/8/25）での証

『神学校で学びませんか！』

九州バプテスト神学校 牧師・主事コース1年 田口清吾

壮年の皆さん、日頃より3神学校の神学生を物心両面でお支えくださっていますことにこの場をお借りしてこころより御礼申し上げます。

私は、九州バプテスト神学校で学び始めて5年目となります。来年は卒業年次となりますが、まだまだ学びの途上を歩んでいるためもっと学びたいと感じています。

主題講演で加藤誠牧師がお話になった日本経済新聞「明日への話題」に掲載された社会学者橋爪大三郎氏の随筆について、実はわたしが今日お証しするために準備してきた内容と同じなのにビックリ！

1か月ほど前に掲載されたこのコラムの著者が文中で取り上げたローレン・アイズリーの作品「星を投げる人」に惹かれ、さっそく愛知県図書館でこの書籍を借りてきました。いろんな訳があるようで、私が読んだものは加藤先生が紹介くださった内容と少し異なっています。日本経済新聞では海岸に打ち上げられたヒトデ（海星）をひとつひとつ海に返している子どもが登場しますが、私が借りた本では成人男性となっています。著者は哲学者、人類学者、詩人でもあるため、文章は哲学書の香りがする読み応えのあるものでした。

アイズリーは、夥しい海星（ヒトデ）が海岸に打ち上げられたその一つひとつを海に投げ返している男を見て思います。何千という海星の中から一匹を助けたところで「何の足しにもならない—No Difference—」ではないか。そこで、海星を投げている男に訊ねました。彼は「それでも、違いが生じる—Make a Difference—」と言いました。この行為に、この男の「生きるもの」に対する眼差し、慈しみのこころを感じた。

要約するとこのようになります。イエス・キリストの働きもファリサイ派などからみれば「何の足しにもならない」ものであり、むしろ害を及ぼすと思われていました。主イエスは、そのご生涯において、徹底的に虐げられ、差別され、虐小さくされた者の傍らに寄り添い、愛という希望の明かりをともし続けました。この営みは、まさに浜辺に打ち上げられた夥しい海星の中から、ひとつ一つのいのちを慈しみ、愛に満ちた癒しの御手により、社会という大海に放つ業なのでした。

神学校で学んでいますと、たとえ私のようにインターネットを通じた学びであっても、ふんだんに聖書のみ言葉に触れることができます。「鼻が燃える」、「はらわたがちぎれる思い」、などという身体表現を旧約学の小林洋一先生から学ぶことが出来ました。また、スクーリングでは関田寛雄先生が「神学は特定の神学者のものではなく、万人のものである。生活という視点から離れてはならない。」という力強い言葉をいただきました。60歳を過ぎてからの学びは、心技体の衰えもありそれなりに辛くもありましたが、学びの喜びと恵みは苦労をはるかに超えています。それは聴講生として1科目だけを受講したとしても、同じ恵みに与れると思います。

壮年の皆さん、是非九州バプテスト神学校で一緒に学びましょう！

第52回全国壮年大会 会計報告

※金額は全て消費税込み

【収入】

科目	金額	備考(内訳等)
参加人数	135名	壮年登録 127名、壮年以外 4名、講師1名、神学生3名
1 大会登録費(壮年127名)	508,000	
2 大会登録費(壮年以外4名)	4,000	
3 食事宿泊費	1,866,100	
4 個室追加料金	114,800	
5 全国壮年会連合補助	200,000	
6 北関東地方連合補助	192,883	
7 前回大会より繰入れ	100,000	
8 席上献金	208,226	内訳:開会礼拝105,411円、派遣礼拝102,815円
収入合計	3,194,009	

【支出】

科目	金額	備考(内訳等)	
大会運営費	9 会場使用料	83,700	チャペル、ピアノ
	10 食事宿泊費	1,887,430	
	11 個室希望等割増料金	154,224	
	12 宿泊キャンセル料	1,600	
	13 講師・奉仕者食事宿泊費	76,032	
	14 講師・奉仕者謝礼	45,000	
	15 講師・奉仕者交通費	135,000	
	16 パラエティタイムガソリン代	10,000	
	17 接待費	-	
	18 諸経費	6,462	看板、資料印刷代
19 その他	18,852	笹団子	
小計	2,418,300		
委員会開催費	20 委員会開催費用	18,046	大会しおり印刷代・厚紙代
	21 委員交通費	192,883	
	22 その他	-	
小計	210,929		
通信事務費	23 広報費用	16,242	案内しおり、ポスター等
	24 通信輸送費用	26,978	全国発送1回
	25 事務費用	576	送金手数料
	26 大会報告書作成費用	-	全国壮年会連合担当
	27 その他	-	
小計	43,796		
献金	28 神学校献金	520,984	席上献金他残余金含む
	小計	520,984	
支出合計	3,194,009		

第52回全国壮年大会in天城 参加者名簿

連番	登録 No.	氏名	教会略称	地方 連合	代議員表示	分ち合い グループ	壮年課題 分団	宿泊部屋	備考
1	94	伊東信吉	大富	東北	代議員	6	D	2309	
2	37	小河義伸	仙台	東北	代議員	7	C	2309	
3	38	向井田洋	仙台	東北	代議員	8	C	2309	
4	39	八巻正之	仙台	東北	代議員	9	C	3-32	
5	56	渡邊憲一	福島主のあしあと	東北	代議員	10	B	2304	
6	40	篠谷輝俊	新潟主の港	北関東	代議員	1	B	2306	
7	41	皆川民男	新潟主の港	北関東	代議員	2	B	2302	
8	42	渡邊弘	新潟主の港	北関東	代議員	1	B	2309	実行委員
9	23	長尾誠	太田	北関東	代議員	3	B	1207	
10	24	広越俊昭	太田	北関東	代議員	4	B	2209	
11	25	石井努	太田	北関東		1	C	ベタニヤ	実行委員
12	128	天野英二	宇都宮	北関東	代議員	5	A	1209	
13	129	竹内一夫	宇都宮	北関東	代議員	2	C	2305	実行委員
14	70	水尾謙作	前橋	北関東		6	C	2302	
15	71	前野惇	前橋	北関東	代議員	2	A	2205	実行委員
16	72	奥田稔	前橋	北関東		7	D	2305	
17	73	角田誠	前橋	北関東	代議員	8	A	1211	
18	20	大谷元光	高崎	北関東	代議員	9	E	2303	
19	21	高井透	高崎	北関東	代議員	3	E	2101	実行委員
20	22	森淳一	高崎	北関東		10	A	1213	
21	7	小林慎之介	水戸	北関東	代議員	3	A	2308	実行委員
22	8	加山文規	水戸	北関東		1	E	1207	
23	9	加山彰一	水戸	北関東		2	D	2305	
24	10	鯉淵登	水戸	北関東		3	B	2202	
25	131	加山礼子	水戸	北関東		4		3-10	
26	127	諏訪正輝	東海	北関東	代議員	5	B	2207	
27	26	井伊肇	日立	北関東	代議員	4	B	2101	実行委員
28	132	後藤文之	筑波	北関東		6	A	1211	
29	133	小山剛	筑波	北関東		4		1202	実行委員
30	134	阿部義孝	筑波	北関東		7		2202	
31	55	笹川均	上尾	北関東	代議員	5	D	2303	実行委員
32	5	佐藤光代	大宮	北関東	代議員	5		3-33	実行委員
33	13	飯野實	宮原	北関東	代議員	6	C	2101	実行委員
34	95	足立智幸	宮原	北関東	代議員	6	B	2105	実行委員
35	96	中村栄一	宮原	北関東		8		2105	
36	114	浦照光	浦和	北関東	代議員	9	A	2103	
37	115	岡田利男	浦和	北関東	代議員	10	E	2209	
38	116	衣笠輝夫	浦和	北関東	代議員	1	C	2307	
39	117	原田潔	浦和	北関東		7	E	2305	実行委員
40	118	廣島尚	浦和	北関東		2	D	1209	

第52回全国壮年大会in天城 参加者名簿

連番	登録 No.	氏名	教会略称	地方 連合	代議員表示	分ち合い グループ	壮年課題 分団	宿泊部屋	備考
41	119	二見 眞 義	浦 和	北関東		7	A	ベタニヤ	実行委員
42	120	山 中 臨 在	浦 和	北関東		8	B	2201	実行委員
43	138	瀬戸口 憲二	浦 和	北関東		8	C	2202	
44	57	山 下 誠 也	川 越	北関東	代議員	3	C	2206	
45	58	丸 山 勉	川 越	北関東	代議員	8	B	2105	実行委員
46	59	飯 塚 岳 夫	川 越	北関東	代議員	9	B	2306	実行委員
47	46	秦 健 一 郎	所 沢	北関東		4	C	2203	
48	47	松 永 政 弘	所 沢	北関東		5	C	2203	
49	48	坂 本 献	所 沢	北関東	代議員	9	A	2301	実行委員
50	49	大 場 和 夫	所 沢	北関東	代議員	10		2205	実行委員
51	50	中 尾 政 昭	所 沢	北関東		6	C	1209	
52	89	大 内 徹 志	飯 能	北関東	代議員	10	B	2302	実行委員
53	90	神 野 修	飯 能	北関東	代議員	7	B	2306	
54	91	足 立 和 子	飯 能	北関東		8		3-10	
55	30	大 城 戸 一 彦	西 川 口	北関東	代議員	2	A	ベタニヤ	実行委員
56	31	高 松 隆 幸	西 川 口	北関東	代議員	1	B	2209	実行委員
57	32	戸 田 浩 司	西 川 口	北関東	代議員	9	B	1211	
58	33	鎌 形 幸 雄	西 川 口	北関東		10			欠席
59	130	大 島 博 幸	ふじみ野	北関東	代議員	3	A	1207	実行委員
60	15	岩 田 浩 司	赤 塚	東京	代議員	1	A	2202	
61	2	野 口 正 俊	志 村	東京	代議員	2	E	3-34	
62	74	内 藤 崇	目 白 ヶ 丘	東京	代議員	3		1202	
63	75	坂 内 孝 雄	目 白 ヶ 丘	東京	代議員	4		1213	
64	76	勝 呂 祐 康	目 白 ヶ 丘	東京	代議員	5	B	2206	
65	16	高 市 和 久	市 川 八 幡	東京	代議員	6	B	2105	
66	17	鳥 飼 好 男	市 川 八 幡	東京	代議員	7	D	3-35	
67	93	小 茂 田 勉	栗 ヶ 沢	東京	代議員	8	B	2308	取消
68	97	左 京 信 雄	花 野 井	東京	代議員	9	E	2208	
69	98	鈴 木 武 史	花 野 井	東京	代議員	10	A	2207	
70	121	久 場 俊 男	恵 泉	東京	代議員	1	C	2207	
71	122	竹 下 達 也	恵 泉	東京	代議員	2	A	2103	
72	108	星 田 恒	品 川	東京	代議員	3	C	2209	
73	109	堤 秀 幸	品 川	東京	代議員	4	D	3-31	
74	60	山 田 誠 一	大 井	東京	代議員	5	C	2103	
75	61	蒲 池 正 明	大 井	東京	代議員	6	B	2205	
76	62	加 藤 誠	大 井	東京		5	B	3-23	大会講師
77	35	岩ヶ谷 吉範	経 堂	東京	代議員	7	C	3-36	
78	27	安 里 耕 二	川 崎	神奈川	代議員	8	D	1205	
79	28	中 村 恭 宣	川 崎	神奈川	代議員	9	E	3-20	
80	29	豊 永 義 典	川 崎	神奈川	代議員	10	B	2306	

第52回全国壮年大会in天城 参加者名簿

連番	登録 No.	氏名	教会略称	地方 連合	代議員表示	分ち合い グループ	壮年課題 分団	宿泊部屋	備考
81	125	北村 賢	百合丘	神奈川	代議員	1	C	1207	
82	63	森 三樹	洋光台	神奈川	代議員	2	C	1209	
83	64	松井 清	洋光台	神奈川		3	B	2308	
84	106	古川光男	相模中央	神奈川	代議員	4	B	1213	
85	18	本多英一郎	三島	西関東	代議員	5	A	2207	
86	19	粕谷郁夫	三島	西関東	代議員	6	E	1206	
87	124	田口昭典	金沢	中部	代議員	7	D	3-27	
88	135	田口清吾	岐阜	中部	代議員	8	E	2308	
89	136	小林大記	豊橋	中部	代議員	9	C	1202	
90	137	長尾直	豊橋	中部	代議員	10	B	1203	
91	43	山本長邦	名古屋	中部	代議員	1	D	2205	
92	44	富士栄 廼	名古屋	中部	代議員	2	D		
93	36	仙敷正俊	瑞穂	中部	代議員	3	B	2304	
94	99	的埜泰典	南名古屋	中部	代議員	4	B	2206	
95	110	山内章彦	四日市	中部	代議員	5	C	2104	
96	126	長谷幸雄	各務原	中部	代議員	6	A	2307	
97	65	酒井俊一	北大阪	関西	代議員	7	E	2208	
98	66	清水紀男	北大阪	関西	代議員	8	A	2206	
99	101	田矢廣司	堺	関西	代議員	9	C	2307	
100	67	稲川 仁	宝塚	関西	代議員	10	C		
101	68	北村慎二	宝塚	関西	代議員	1	A		
102	69	古田晴彦	宝塚	関西	代議員	2	C		
103	100	西脇慎一	神戸	関西	代議員	3	C	1202	
104	78	石倉 央	広島	中四国	代議員	4	B	2104	
105	77	梶井義郎	高松常磐町	中四国	代議員	5	D	2104	
106	102	武井邦夫	高松太田	中四国	代議員	6	B	2106	
107	4	松田裕二	道後	中四国	代議員	7	A	3-37	
108	113	中村 熙	若松	北九州	代議員	9	B	2203	
109	79	菊岡義修	東八幡	北九州	代議員	10	A	2104	
110	80	斎藤弘司	東八幡	北九州	代議員	1	B	1202	
111	11	梅木芳昭	大分	北九州	代議員	2	B	2303	
112	12	村上信雄	大分	北九州	代議員	3	E	2307	
113	107	長妻克彦	古賀	福岡	代議員	4	C	1211	
114	105	久賀英男	香住ヶ丘	福岡	代議員	5	A	2203	
115	82	相模裕一	西南学院	福岡	代議員	6	D		
116	83	三室日朗	西南学院	福岡	代議員	7	B	2302	
117	92	川内光	福岡城西	福岡	代議員	8	A	3-38	
118	6	篠田裕俊	田隈	福岡	代議員	9	D	3-39	
119	81	小林洋一	長住	福岡	代議員	10	B	2208	
120	104	前坂昌広	春日原	福岡	代議員	1	D	2208	

第52回全国壮年大会in天城 参加者名簿

連番	登録 No.	氏名	教会略称	地方 連合	代議員表示	分ち合い グループ	壮年課題 分団	宿泊部屋	備考
121	84	高橋 實	長崎	西九州	代議員	2	A	2303	
122	103	中島 一弘	大川	西九州	代議員	3	B	2103	
123	85	曾根基雄	児湯	南九州	代議員	4	E	3-20	
124	86	吉高 叶	日本バプテスト連盟	その他		5	B	3-29	
125	87	松藤 一作	日本バプテスト連盟	その他		6	A	3-28	
126	88	久保 公平	日本バプテスト連盟	その他		4	B	2101	実行委員
127	3	天野 有	西南学院大学	その他		7	A	3-30	
128	14	日原 広志	西南学院大学	その他		8	A	1213	
129	45	松見 俊	西南学院大学	その他		9	B	2304	
130	51	金丸 英子	西南学院大学	その他		10	C	3-21	
131	52	加山 献	西南学院大学	その他		1	B	1311	
132	53	原田 賢	西南学院大学	その他		2	A	1311	
133	54	伊藤 真嗣	西南学院大学	その他		3	B	1311	
134	111	濱野 道雄	鳥栖	その他	代議員	4	D	3-26	
135	123	片山 寛	西南学院大学	その他		5	B	3-24	
136	1	朴 思郁	連盟宣教研究所	その他		6		3-25	
137	34	伊藤 世里江	JCS	その他		7		3-22	

◎参加者の内訳

(1)	参加教会・伝道所	64件、123名
(2)	その他	4件、13名
(3)	代議員数	99名

◎宿泊部屋番号の見かた

1202	1号館2階202号室
2101	2号館1階101号室
3-10	3号館1階10号室

2017 年度 全国壮年会連合総会 議案結果一覧

議案 No.	議 案	結 果
1	1-1 2016 年度全国壮年会連合活動報告 資料：各教会・伝道所別神学校献金・会費一覧表（2014～2016 年度）	承 認
	1-2 2016 年度全国壮年会連合奨学金委員会活動報告	承 認
	1-3 2016 年度監査報告（業務監査）	承 認
2	2-1 2016 年度一般会計決算報告	承 認
	2-2 2016 年度奨学金会計決算報告	承 認
	2-3 2016 年度監査報告（会計監査）	承 認
3	2018 年度神学校献金（神学生奨学金献金）目標額	承 認
4	全国壮年会連合規約細則改正	承 認
5	2017-2018 年度全国壮年会連合活動計画案	承 認
6	2017-2018 年度全国壮年会連合奨学金委員会活動計画案	承 認
7	7-1 2017 年度全国壮年会連合一般会計修正予算案 及び 2018 年度全国壮年会連合一般会計予算案	承 認
	7-2 2017 年度全国壮年会連合奨学金会計修正予算案 及び 2018 年度全国壮年会連合奨学金会計予算案	承 認
8	2018-2019 年度全国壮年会連合会長・副会長・監査選挙に関する件	承 認
9	第 54 回(2019 年度) 全国壮年大会担当地方連合の件	承 認
10	2018 年度 総会議長の件	承 認

日時：2017年8月25日(金) 13:30～16:30

場所：日本バプテスト連盟 天城山荘

代議員：99名

・議長団選出

大城戸一彦会長(西川口)を仮議長とし、昨年総会で承認された議長と、壮年会連合役員会より推薦された副議長、書記2名の議長団を提案し、賛成多数で承認された。

議長：向井田洋(東北・仙台)

副議長：北村賢(神奈川・百合丘)

書記：足立智幸(北関東・宮原)

書記：井伊肇(連合書記、北関東・日立)

・向井田洋議長の祈り、議事進行についての説明

【議案 1-1】2016年度全国壮年会連合活動報告・・・事前配布資料 p. 10～12

*岩ヶ谷吉範事務局長(経堂)より報告。

(質疑)なし、(意見)なし

【採決】賛成多数で承認

【議案 1-2】2016年度全国壮年会連合奨学金委員会活動報告・・・事前配布資料 p. 13～12-

*伊東信吉前奨学金委員長(大富)より報告。

(質疑応答)

Q) 豊永義典(川崎)：p. 13 基本活動⑤について具体的な動きはあったのか、なかったのか。ないとすれば、今のところやることがない、ということなのか。

A) 伊東信吉前奨学金委員長：課題がなくなった訳ではなく継続的に話しをしている。萩原奨学金委員(前理事・洋光台)話しをしており、理事会としても課題を共有している。引き続き課題として認識している。

(意見)

・水尾謙作(前橋)：5. 特記事項③貸与から給付切り替えた経過の説明を、昨年総会に出ていなかったが、もう少し説明が欲しかった。

【採決】賛成多数で承認

【議案 1-3】2016年度監査報告(業務監査)・・・事前配布資料 p. 17～18-

*富士栄迪監査(名古屋)より報告。

(質疑)なし、(意見)なし

【採決は、議案 2-3 と合わせて行う】

【議案 2-1】2016年度一般会計決算報告・・・事前配布資料 p. 20

*高井透会計(高崎)より報告。

(質疑) なし、(意見) なし

【採決】 賛成多数で承認

【議案 2-2】 2016 年度奨学会会計決算報告・・・事前配布資料 p. 21-

* 山本長邦前奨学会委員(名古屋)より報告。

(質疑) なし、(意見) なし

【採決】 賛成多数で承認

【議案 2-3】 2016 年度監査報告 (会計監査)・・・事前配布資料 p. 19-

* 富士栄迪監査より報告。

(質疑)

Q) 豊永義典(川崎) : p. 19 の下から 1/3 くらいのところ、「つまり、貸与奨学金として・・・奨学金の資産性は額面どおりではないこと、・・・留意する必要がある。」という指摘に対して、役員会として、これに対応してやる準備をしておられるのか。

A) 大城戸一彦会長 : この件に関しては、連盟の会計との調整が必要となる。今は、貸借対照表の表記様式を連盟と合わせている。我々もスリムにしたいと考えているので、今後その方向で調整をするが、それを受け入れてくれるか否かは話し合いの結果による。

Q) 田矢廣司(堺) : P. 19 下から 11 行目に「・・・神学生 30 名という目標・・・」とあるが、これは変更か、あるいは 25 名ではないか。

A) 富士栄迪監査 : 申しわけない。監査の勇み足である。25 名に訂正し、議事録にその旨を記録として残す。

※P. 19 下から 11 行目の・・・神学生 20 名・・・ → 25 名に訂正

(意見) なし

【議案 1-3 と合わせて採決】 賛成多数で承認

【議案 3】 2018 年度神学校献金 (神学生奨学会献金) 目標額・・・事前配布資料 p. 22-

* 野口正俊副会長(志村)より提案。

(質疑) なし、(意見) なし

【採決】 賛成多数で承認

【議案 4】 全国壮年会連合規約細則改正・・・事前配布資料 p. 23-

* 岩ヶ谷吉範事務局長より提案。

(質疑) なし、(意見) なし

【採決】 賛成多数で承認

【議案 5】 2017-2018 年度全国壮年会連合活動計画案・・・事前配布資料 p. 24~28-

* 大城戸一彦会長より提案。

(質疑)

Q) 豊永義典(川崎) : p. 26 の V. 代表者会議については壮年会連合規約 9 条に、構成と運営については別に定める、とあり、同細則には、構成はあるが、運営の規約がない。先

ほどの説明では 2018 年度トライアルするとあったが、それならば規約が必要ではないか。

2019 年度からやるのであれば、来年度総会に運営の規約を出すくらいに準備がないといけないのではないか。

A) 大城戸一彦会長：運用細則を作って正式運用したいということは p 29 に記載の通りであるが、現役員の任期が今年度までなので、次期役員会と調整したうえで引き継ぎ行いたいと考えている。

Q) 天野英二（宇都宮）：提案された代表者会議の運用で、総会がシンプルになっていけば、一泊二日の大会でも、研鑽のプログラムが増える、ということが見えているのか。

A) 大城戸一彦会長：そうさせたいと思っている。ただ現機構の中では決裁権限を代表者会議メンバーの各連合の壮年会長にもたせるかどうか、その部分の検討が必要となる。

(意見)

・酒井俊一(北大阪)：来年の壮年大会は 8 月 17(日)、18(日)であり、JR 割引が使えない、できれば、今後 20 日以降にしてほしい。

A) 向井田洋（仙台）：次回大会実行委員長として発言させていただく。会場が学校であったため、学校行事の関係でこのような日程になったことをご理解いただきご協力願いたい。次々回以降の大会では、この意見を考慮していただくよう引き継ぎたい。

・松田裕二（道後）：20 日以降は、現役世代例えば金融関係で働く人には参加難しいので、考慮願いたい。

・高市和久（市川八幡）：p 28 の中ほどの表で、一括承認と審議し承認の違いが分かりにくい。質問となってしまうが・・・。

A) 大城戸一彦会長：細かい点で決まっていないが、一括承認とは、内容を説明しないで議場に諮って承認してもらうと言うイメージ。それが良いかどうかは今後検討することになる。

【採決】賛成多数で承認

【議案 6】2017-2018 年度全国壮年会連合奨学金委員会活動計画案・・・事前配布資料 p. 29～32

*篠田裕俊奨学金委員長(田隈)より提案

(質疑)

Q) 豊永義典（川崎）：p 31 の②返還滞留者の表と、p 15 の②の表とで、2017 年 3 月末と 4 月で人数、金額が大きく変わるのなぜか。

A) 篠田裕俊奨学金委員長：3 月末での未返還や、4 月の償還が終了の方などを織り込むため大きく変わる。また科目がいくつも変わっていくなど会計処理が複雑であるが、分かりにくいがこの表記で継続しているので、ご理解願いたい。

(意見) なし

【採決】賛成多数で承認

【議案 7-1】2017 年度全国壮年会連合一般会計修正予算案

及び 2018 年度全国壮年会連合一般会計予算案・・・事前配布資料 p. 33

*高井透会計より提案

(質疑)

Q) 豊永義典(川崎)：p33 表下の※1について、これまで監査の意見は、役員や奨学金委員の負担軽減であった。何故そちらにいかず、代表者会議出席の壮年会長と総会議長の日当の方になったのか。

A) 高井透会計：役員や奨学金委員の日当についても検討したが、今年度はプロジェクト小冊子や三つ折りパンフレット作成に経費が必要となるため、少額ではあるが、提案のように予算計上した。2018年度以降は、その方向で少しずつでも検討しよう、ということになっている。

Q) 北村慎二(宝塚)：先ほどの日当は、科目が3-①旅費交通費となっているが、1-①代表者会議旅費のほうではないのか。

A) 高井透会計：これまでの慣例を踏まえ、このような仕訳にした。

(意見) なし

【採決】賛成多数で承認

○豊永義典(川崎)：採決の時、反対票をカウントして欲しい。

→向井田洋議長：以降の議案で、考慮したい。

【議案 7-2】2017年度全国壮年会連合奨学金会計修正予算案

及び2018年度全国壮年会連合奨学金会計予算案・・・事前配布資料 p. 34

* 田口清吾奨学金委員(岐阜)より提案。

(質疑) なし、(意見) なし

【採決】賛成多数で承認 <反対 0>

【議案 8】2018-2019年度全国壮年会連合会長・副会長・監査選挙に関する件

・・・事前配布資料 p. 35-

* 曾根基雄選挙管理委員長(児湯)より立候補者の説明。

(1) 会長立候補者・・・山田誠一(大井)と川内光(福岡城西)の2名

◆立候補者のサポーターによるアピール要請があったが、選挙規定にないため、選挙管理委員にて合議結果、アピールは無しとした。

◆山田誠一氏については、選挙管理委員から外れていることを確認。なお選挙管理委員は、各地方連合の壮年会長から選出されるため、東京地方連合壮年会長は山田氏が在任中のため後任はなく、東京地方連合からの選挙管理委員は欠員となる。

◆立候補者から、抱負や次年度の取組みをアピール。

《会長候補・選挙投票結果》

山田誠一 54 票、川内光 41 票、白票 1、無効 1 で、山田誠一氏が当選。

(2) 副会長候補者 1 名・・・三室日朗(西南学院)

議場の拍手を持って承認

◆会長選挙の途中に、副会長の選挙を行ったが、会長立候補 2 名の内の 1 名と同じ連合から副会長立候補者が立つことが、誘導となるかもしれないので、それぞれを、順序通り行うよう意見あり。選挙管理委員会は、次回留意すること。

(3) 監査の立候補者なし

大城戸一彦会長：次年度会長とも相談し、候補者を探していく。次年度総会で承認していただくことを提案する。

【採決】賛成多数で承認 <反対 0>

(4) 次年度役員として、山田誠一会長より以下を推薦

事務局長 豊永義典（神奈川・川崎）
会計 相山憲司（東京・青梅あけぼの）
書記 向井田洋（東北・仙台）

【採決】賛成多数で承認

(意見)

- ・篠田裕俊(田隈):会長、副会長、監査と、ひとつずつ順序をもって選挙して欲しい。
- ・酒井俊一(北大阪)他:投票用紙に番号を入れるなど、投票用紙枚数確認を行って欲しい。
- ・久場俊男(恵泉):候補者が当日まで分らないことは社会通念としてはない。改善して欲しい。また会長が副会長を選び「組閣」するような形として検討することも含め、選挙の規約細則を整備すべき。

【議案9】第54回(2019年度)全国壮年大会担当地方連合の件・・・事前配布資料 p. 36

*岩ヶ谷吉範事務局長より神奈川連合を提案

【採決】賛成多数で承認 <反対 0>

【議案10】2018年度総会議長の件・・・事前配布資料 p. 36

*岩ヶ谷吉範事務局長より提案

神奈川地方連合壮年会の総会（11月頃開催予定）で決定されるので、今回は神奈川地方連合の壮年より選出する、ということで承認願いたい。

【採決】賛成多数で承認 <反対 0>

北村賢副議長(百合丘)の祈りにて総会終了

以上

議長 向井田 洋 印 

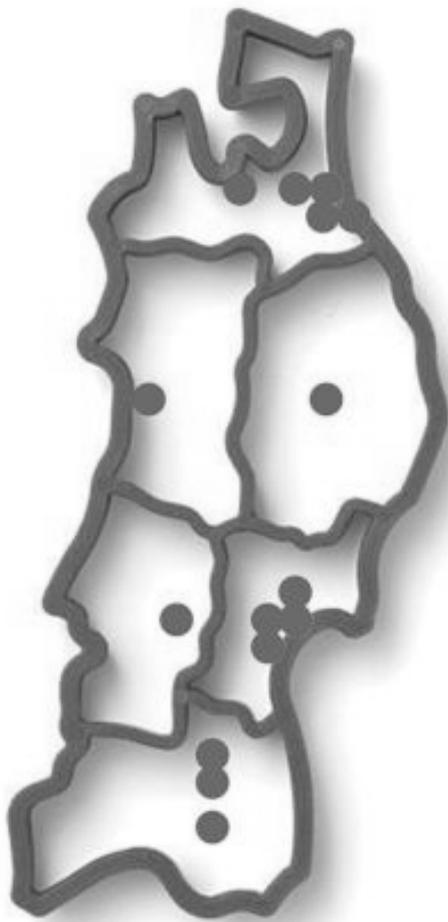
副議長 北村 賢 印 

書記 是立 智幸 印 

書記 井伊 肇 印 

第53回 全国壮年大会in仙台

我等は浸（しずめ）、
バプテストでござる。



2018年の壮年大会は「東北」に
フォーカスを当てます。東北の人と
広がる自然を前に、バプテストの先
達の働きの中から壮年の自覚と決意
を新たにします。ぜひ参集願います。

2018年8月17日（金）・18日（土）

尚綱学院中学校・高等学校礼拝堂
仙台市青葉区八幡1-9-27 ☎022-264-5881



大会実行委員会事務局 / 日本バプテスト仙台基督教会
仙台市青葉区木町通2-1-15 ☎022-233-3550

アクセスマップ 尚綱学院中学校・高等学校



- ① 地下鉄仙台駅から → バス乗り換え
- ② 地下鉄北四番丁駅から → 徒歩 **約20分**
- ③ 地下鉄東西線国際センター駅から → 徒歩 **約10分**



- ① JR仙台駅バスプールから → 大学病院前経由「交通公園」行き **尚綱前下車**
- ② 交通局東仙台営業所から → 澁橋経由「広瀬通り一番町」行き など **尚綱前下車**



- ① JR仙台駅バスプールから → 大学病院経由「川内」行き など **尚綱前下車**



【始発】那智が丘2丁目→那智が丘4丁目→みどり台→尚綱学院大学→ゆりが丘公民館→相互台中央→人來田入口→中の瀬前→茂庭台中央→栗生5丁目→陸前落合駅→【終点】尚綱中・高

※運行経路は変更になる場合があります。



全国壮年会連合39年の歩み

＜資料＞

周年	年	大会	場 所	参加 人数	神学校 献金額 (万円)	神学校 献金目 標額 (万円)	壮年 会員数	会費納 入者数	納入 比率	備 考
	1978	第13回	埼玉・所沢 湖畔荘	110	—	—	2421	—	—	連合発足総会
1	1979	第14回	静岡・天城山荘	64	550	400	2560			
2	1980	第15回	福岡・神学部	210	704	600	2694	213	7.9	
3	1981	第16回	東京バプテスト教会	180	898	800	2718	765	28.1	
4	1982	第17回	広島・広島教会	140	966	1000	2859			
5	1983	第18回	東京・常盤台教会	170	1075	1200	3032	1049	34.6	
6	1984	第19回	名古屋・名古屋教会	140	1225	1300	3106	1003	32.3	
7	1985	第20回	埼玉・浦和教会	166	1244	1350	3241	1203	37.1	
8	1986	第21回	福岡・西南学院	275	1340	1400	3300			
9	1987	第22回	東京・大井教会	300	1409	1450	3336	1363	40.9	
10	1988	第23回	京都・京都教会他	200	1460	1500	3391	958	28.3	
11	1989	第24回	福岡・西南学院教会	225	1491	1550	3424	1994	58.2	宣教100周年
12	1990	第25回	宮城・仙台教会	180	1603	1650	3518	1464	41.6	
13	1991	第26回	東京・常盤台教会	200	1724	1750	3613	1446	40.0	
14	1992	第27回	北海道・札幌教会	148	1698	1850	3643	1351	37.1	
15	1993	第28回	神奈川・川崎教会	200	1725	2000	3679	1536	41.8	
16	1994	第29回	福岡・西南女学院	230	1740	2100	3841	1309	34.1	
17	1995	第30回	埼玉・浦和文化センター他	280	1776	2800	3916	1222	31.2	
18	1996	第31回	香川・香川厚生年金会館	243	1930	2850	3987	1351	33.8	
19	1997	第32回	静岡・天城山荘	146	2013	2850	3982	1343	33.7	
20	1998	第33回	佐賀・ホテルはがくれ荘他	196	2011	2850	3861	1542	39.9	
21	1999	第34回	横浜・郵貯会館他	260	1928	2200	3930	1547	39.3	
22	2000	第35回	岐阜・羽島文化センター	250	2123	2400	3982	1652	41.5	
23	2001	第36回	埼玉・ラフレさいたま他	280	2137	2400	3972	1561	39.3	
24	2002	第37回	神戸市産業振興センター他	255	2252	2400	3972	1553	39.1	
25	2003	第38回	静岡・天城山荘	160	2226	2500	3970	1608	40.5	
26	2004	第39回	青森・古牧温泉Gホテル	200	2421	2500	4021	1596	39.7	
27	2005	第40回	静岡・天城山荘	160	2498	3000	4076	1671	41.0	
28	2006	第41回	鹿児島・東急ホテル	208	2446	3000	4054	1630	40.2	
29	2007	第42回	静岡・天城山荘	110	2480	3000	4076	1771	43.4	
30	2008	第43回	福岡・西南学院大学	620	2491	3000	4164	1708	41.0	神学部建学100周年
31	2009	第44回	茨城・つくば国際会議場	280	2411	3000	4203	1658	39.4	
32	2010	第45回	北海道・札幌教会	223	2325	3000	4248	1630	38.4	
33	2011	第46回	静岡・天城山荘	164	2346	3000	4230	1537	35.9	
34	2012	第47回	名古屋・ガスホール	278	2228	3000	4256	1543	36.3	
35	2013	第48回	福岡・西南学院大学	480	2292	3000	4150	1493	35.9	
36	2014	第49回	広島市文化交流会館	235	2284	3000	2601	1456	55.9	会員数算出基準変更
37	2015	第50回	東京・大田区産業プラザPIO 大井バプテスト教会	267	2227	3000	2546	1534	60.2	
38	2016	第51回	北九州・西南女学院 シオン山教会	397	2235	3000	2466	1435	58.2	
39	2017	第52回	静岡・天城山荘	135		3000	2404			

2017年度 第52回全国壮年大会in天城 実行委員会

番号	担当・役職	教会名	名前
1	実行委員長	太田教会	石 井 努
2	副委員長	浦和教会	二 見 眞 義
3	事務局長	大宮教会	久 保 公 平
4	書記	日立教会	井 伊 肇
5	書記	筑波教会	小 山 剛
6	祈祷委員会	新潟主の港教会	渡 邊 弘
7	祈祷委員会	東海伝道所	北 爪 光 幸
8	広報宣伝	大宮教会	佐 藤 光 代
9	広報宣伝	宮原教会	足 立 智 幸
10	会場委員会	宇都宮教会	竹 内 一 夫
11	会場委員会	太田ビジョン伝道所	中 島 義 人
12	会場委員会	上尾教会	笹 川 均
13	会場委員会	川越教会	丸 山 勉
14	会場委員会	川越教会	飯 塚 岳 夫
15	会場委員会	飯能教会	大 内 徹 志
16	会場委員会	西川口教会	高 松 隆 幸
17	プログラム委員会	水戸教会	小 林 慎 之 介
18	プログラム委員会	所沢教会	大 場 和 夫
19	音楽委員会	前橋教会	前 野 惇
20	音楽委員会	所沢教会	坂 本 献
21	音楽委員会	浦和教会	山 中 臨 在
22	事務局	高崎教会	高 井 透
23	事務局	宮原教会	飯 野 實
24	事務局	浦和教会	原 田 潔
25	事務局	ふじみ野教会	大 島 博 幸
26	事務局	西川口教会	大 城 戸 一 彦

日本バプテスト連盟 全国壮年会連合

会長	大城戸一彦（西川口）
副会長	野口 正俊（志村）
事務局長	岩ヶ谷吉範（経堂）
書記	井伊 肇（日立）
会計	高井 透（高崎）
監査	富士栄 迪（名古屋）
監査	加山 文規（水戸）
事務局	飯野 實（宮原）

日本バプテスト連盟全国壮年会連合
〒336-0017 さいたま市南区南浦和 1-2-4
事務局執務：月、水、金 10:00～16:00 ☎・fax:048-886-7533
<http://www.sonen.net> sonen@bapren.jp